

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2020年2月14日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(2日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	弘前市役所	代表者名	櫻田 宏
担当者部署	企画部企画課	連絡先電話番号	0172-40-0631
担当者役職		担当者氏名	
住所	036-8551 青森県弘前市大字上白銀町1-1		
連絡先E-mail			

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変よい
上記評価の理由(どのよう なところがよ かったか等詳 細に)	2月9日に『シェアリングサミット2020in弘前』を開催し、企業経営者・経営幹部、起業希望者、学生、一般市民など様々な属性の方にシェアリングエコノミーを活用した地域課題の解決方法に関するイベントを実施。森戸氏には、イベントの企画・登壇者の選定等、これまでの経験を踏まえた助言や当日の進行にご尽力いただき、イベントは盛況のうちに終了することができた。
アドバイザーへの要望事項	シェアリングエコノミーを活用した地域課題の解決については、人口減少や少子高齢化が急速に進んでいる地方の方が活用の幅が大きいと考えられるので、可能であれば県内他都市でのイベントの開催や別のテーマで将来を担う学生を対象とした講師の派遣をお願いしたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2020年2月9日	12時00分	17時00分		300
3-2. 派遣場所	会場名	土手町コミュニティパーク		最寄駅	弘前駅
	所在地	青森県弘前市大字土手町31			
	最寄駅からの交通手段	バス			

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	地方公共団体職員、企業、学生、一般、企業支援団体	100人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	・地域活性化のための新事業創造のきっかけづくりや他地域との連携、次世代人材育成。	
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	・シェアリングエコノミーに関する地域住民への普及啓発により、地域にシェアリングエコノミーのスキームを活用した新事業創造や地域課題の解決に向けた取組のきっかけとしてもらう。	
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	・イベント(シェアリングサミット)全体の組み立て・登壇者の選定及び当日の進行役のほかSNSでのイベント周知などの支援をいただき、サミットは3部構成で、第1セッションではシェアリングエコノミーを活用した地方創生、第2セッションではインバウンド観光客の動向と地域活性化につなげる方策、第3セッションでは東京オリンピック・パラリンピックと地方創生をテーマにシェアリングエコノミーの活用可能性について他の登壇者とのディスカッション形式で助言していただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	・地域内の様々な職種の方にお集りいただき、シェアリングエコノミーを活用した地域課題の解決に向けた新事業創造や地域課題の解決に向けた取組のきっかけとしてもらうことができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特に無し	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 ・シェアリングエコノミーの活用方法については78%がよく理解できた・概ね理解できたと回答し、また、シェアリングエコノミーを活用したいかに対しては89%が活用してみたいとの回答であったことから、イベントの目的である「地域課題の解決に向けたきっかけ」は達成できたものと考えます。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定
事業の最終的な目指す姿		

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

